

一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第316号

(令和6年1月1日)

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



会長 城戸城濤

「若い教授師範の活躍に期待」

一般社団法人詩吟朗詠錦城会

新年を迎え、この一年が輝かしい年となります事を祈念いたします。

とは申せ、世界に目を向ければ黒海・地中海を挟んでのロシア

アとウクライナ、パレスチナとイスラエルの混沌とした戦いの行方を始めとして、私たちには理解しにくい状態がいつ果てるともなく続きそうな情勢です。

謹んで年頭のご挨拶を

申し上げます

本会顧問の諸先生をはじめ、吟界各方面の皆様、新しい年を迎えお慶びを申し上げます。

本年は、錦城流創流七十周年を迎えます。会員一同、次の時代に向かって精進して参ります。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

令和六年 元旦

詩吟朗詠錦城流 宗家 山元錦城
(一社) 詩吟朗詠錦城会 会長 城戸城濤

近くは、北朝鮮の動向、中国の海洋進出問題など、目の離せないアジアの状況などにも関心をもちながら、この一年を過さなければならぬと考えております。

さて、当会の昨年をざっと振り返って見ますと、コロナ禍の三年をどうにか乗り切ったばかり、コロナ禍前の状態に戻ることが出来、行事も1月の理事会に始まり、3月22・23日には福岡で全国師範吟詠発表会、3月26日には宮城県気仙沼支部50周年記念大会、4月27日には鹿児島での詩舞道全国大会、5月27日には彦根で滋賀県本部55周年記念大会と続き、6月には湯河原で22日に師範吟詠発表会、23日に

総会を開催することが出来ました。

この間、長年にわたり当会の役員として会運営に努めて来てくれた総師範、草薨城輝専務理事が闘病叶わず4月17日他界されるという悲しい出来事が起こってしまいました。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

9月10日には、茨城県本部60周年記念大会が水戸市に於いて開催され、10月8日には、全国大会を彦根市に於いて開催することが出来ました。

11月26日、4年振りとなる「吟道之碑前祭」が沼津市に於いて開催され、令和5年の行事を締め括りました。

最後に、表題の件ですが、コロナ禍の中で減少した会員の数が誠に危機的な状態であること、を思うとき、故草薨専務が生前に言い残してくれた「青年部の復活」という事の重要性を再認識する必要がありますと思われてなりません。青年と言わずとも盛年と思われる方々に参加して頂いて、その所に予算を配分していく必要があると考えます。

青年部の復活と言っても現実には厳しく、年齢で青年を定義すればその数の少なさに愕然とするというのが現実でしょう。さりながら手をこまねいてばかりいては、先細りは目に見えています。青年の定義をもう一度検

討し直し、知恵を出し合って再出発するべき時と考えます。

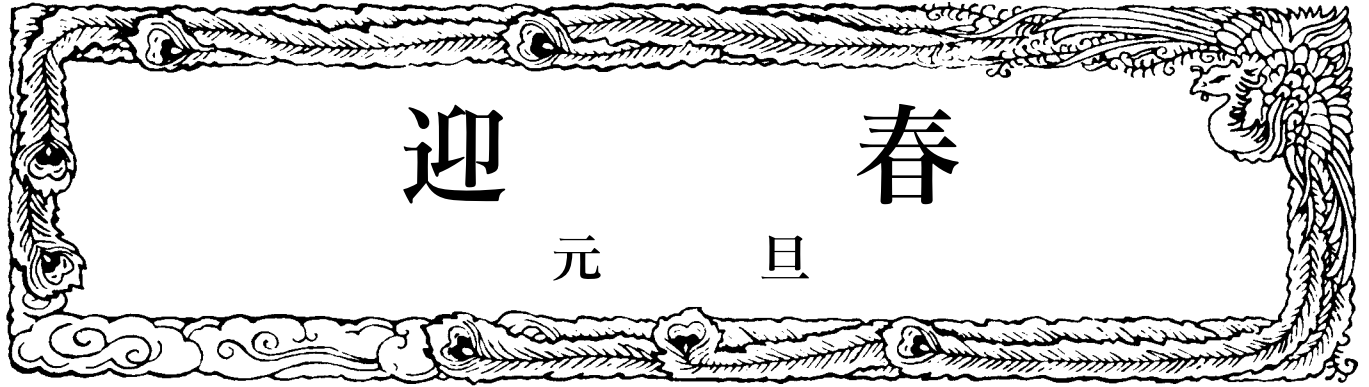
若い入会者を集めるには、何と云っても若い指導者が一番です。思い起こせば、錦城流はその創設の時代から若い指導者を育ててきたのです。若い吟詠指導の専門家を育て、敢えて申せば吟詠指導で生活の成り立つような吟詠のプロづくりに努めて来たのです。

「言うは易し、行うは難し」と申しますが、早速検討委員会を立ち上げ、検討会を開催していきたく考えています。多くの皆さんのご意見をお聴きしたいと考えておりますので、手紙でもメールでもファックスでも結構ですので、総本部事務局に送って頂きたいと思っております。多くの皆様のご参加を期待しております。

「困った時は、創始の精神に帰れ」と言った先輩がいました。が、今こそ錦城流・錦城会の創始の精神に立ち返り、若い指導者がどうしたら育ってくれるのかを、皆さんと共に考え行動に移して行きたいと思っております。

私のこの初夢が、現実のものとなる一年であってくださるようお願いして、年頭のご挨拶いたします。





顧問
(順不同・敬称略)

衆議院議員 麻生 太郎

元衆議院議員 久間 章生

筑前琵琶橘流日本橘协会会长 橘 旭宗

(株)日本文化チャンネル桜社長 水 島 総

会長 城戸 城濤

相談役 山元錦城(東京) 理事 佐藤城孝(神奈川)

同 本村錦香(鹿児島) 同 藤田錦信(宮城)

最高諮問委員 高橋城伸(広島) 同 毎熊城明(長崎)

同 山元錦隆(東京) 同 土田城紘(滋賀)

同 村瀬城博(愛知) 監事 岩田城龍(東京)

副会長 本村錦香(鹿児島) 同 大内城晃(茨城)

同 金子城大(埼玉) 参与 本間城楓(道央)

専務理事 土師城皓(神奈川) 同 芹澤城征(福島)

常務理事 高羽城幹(神奈川) 同 海野錦麗香(茨城)

同 佐藤錦杲(神奈川) 同 金子錦要(埼玉)

同 遠藤城啓(東京) 同 和田錦堯(東京)

理事 今井 勝(東京) 同 石原城興(神奈川)

同 東本錦怜(福岡) 同 深水城實(静岡)

同 村山城機(東京) 同 若月城嗣(愛知)

同 古賀城暎(佐賀) 同 宮川城広(滋賀)

同 西川錦洸(広島) 同 塩川錦晃(大阪)

同 竹崎錦里(道南) 同 沖浦城昭(広島)

同 吉本城川(鹿児島) 同 山本城勘(山口)

同 堀川城怨(滋賀) 同 益田城真(福岡)

同 鍛冶錦代(愛知) 同 飯田城英(大分)

同 後藤錦曜(長崎) 同 山下城音(長崎)

同 林 錦枝(滋賀) 同 吉松城勇(宮崎)

第60回 吟道之碑前祭

令和5年11月26日(日)、静岡県沼津市のプラザヴェルデに於いて、4年ぶりに吟道之碑前祭が開催されました。

本会からも、宗家・山元錦城先生、会長・城戸城濤先生、副会長・本村錦香先生を始めとして、多くの会員が参列して、厳かに開催されました。

令和2年から本年迄の合祀された皆様は次の26名の方です。

- 平田錦葵興 (茨城県)
- 林 錦勲 (滋賀県)
- 土田錦川 (滋賀県)
- 高木城浅 (滋賀県)

- 令和4年
- 佐藤城秀 (長崎県)
- 新村錦好 (静岡県)
- 外川城啓 (滋賀県)
- 内田錦佳 (福岡県)
- 石井城山 (福岡県)

- 村上錦縫 (福岡県)
- 大橋錦澄 (愛知県)
- 令和5年
- 久木田城康 (鹿児島県)
- 草薙城輝 (東京都)
- 川島城石 (滋賀県)
- 高橋錦道 (宮城県)

本部の動き
5・10・16より 5・11・15まで

10月21〜23日 広島県本部の師範指導と昇格審査
11月4〜5日 北海道道央本部の講習研修会

詩舞一般二部に出場の藤井美由紀様(広島)優勝、本決戦においては全国三位を獲得

第32回日本伝統文化吟友会吟

漢詩

少年の部 北中彩月 (広島)

一般二部 大村 誠 (広島)

一般四部 平川智久 (広島)

佐々木重綱 (広島)

林 清隆 (神奈川)

短歌・一般の部

小宮喜八郎 (神奈川)

小林文子 (広島)

佐藤法子 (神奈川)

詩舞

一般二部 藤井美由紀 (広島)

一般三部 中村妙子 (広島)

第32回日本伝統文化吟友会吟が、錦秋の好季節、11月23日、吟詠の部が埼玉県草加市中央公民館ホールで、剣詩舞の部が草加市アコスホールで開催されました。全国各地の予選会を乗り越え、全国大会の出場権を獲得されての出場となり、会場内は、緊迫した中での大会となりました。

詩吟朗詠錦城流宗家・山元錦城先生のご臨席を頂き、錦城会からは次の10名の選手が出場しました。

- 令和2年
- 丸山城壮 (神奈川県)
- 池淵城秀 (福岡県)
- 酒井錦呈 (滋賀県)
- 水間城水 (神奈川県)
- 早川錦編 (鹿児島県)
- 水野錦沙 (愛知県)
- 令和3年
- 金子錦峽 (佐賀県)
- 四元錦香 (鹿児島県)
- 日高城翠 (長崎県)
- 石原錦紫 (神奈川県)
- 桂田錦鶴 (滋賀県)



4年ぶりの「流祖墓参」

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、約4年ぶりの令和5年10月29日(日)、流祖の菩提寺である「東京都世田谷区・乗満寺」にて、墓参開催となりました。

例年、開催日は流祖のご命日(9月25日)前後の土日いずれかで、今年も同様でしたが、今年も異常な暑さに加え、全国大会等行事の重なりもあり、時期をずらしての開催となりました。

(東京都本部 森永城郷)



審査委員は、吟詠の部は、高羽城幹先生、剣詩舞の部は、西川緑恵先生が務めました。

審査の結果は、漢詩少年の部、北中彩月様が第三位、一般四部の審査員特別賞には、小宮喜八郎様、平川智久様、林 清隆様が入賞しました。

前年度から『文部科学大臣賞』『埼玉県知事賞』『公財』日本伝統文化振興財団賞』を決める「出場者部門別」の優勝者による吟詠の部優勝者(幼少年の部を除く)6名、剣詩舞の部優勝者8名で本決戦を行いました。

この本決戦に、詩舞一般二部で優勝した藤井美由紀様が挑戦し、審査の結果、剣詩舞の部で、第三位となりました。誠にありがとうございました。今後のご活躍を願っております。

尚、日本伝統文化吟友会では、全国コンクールを8地区(北海道・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州)で開催しておりますので、各地区予選会に技量の向上の一助に出場をお願いいたします。

(二社) 詩吟朗詠錦城会担当
日本伝統文化吟友会
金子城大

大阪府本部 五十周年記念温習会を終えて

令和5年10月29日(日)、秋晴れの中、大阪府本部50周年記念温習会を、藤井寺市立市民総合会館中ホールで開催しました。

午後1時30分開演。企画吟、「菅公編」・「秋」・「楠公編」・「李白と杜甫」。平和を念うから、「姫百合の塔」。新体詩「千曲川旅情の歌」。詩舞道会員による詩舞2題、「富士山」と「落花」。また、冠翔流・鶯城流の剣舞も応援にかけて下さいました。



心配しておりましたお客様も、会員の皆様のお声かけて、百人以上も来ていただきました、お客様への粗品は、羽曳野支部の木原八咲子さんが、手作りで作ってくれました。



舞台の最後は、久保城幸専務理事の閉会の辞で無事に終了することが出来ました。

温習会が終わった後は、楽しい懇親会。梅林で有名な道明寺の前にある料亭「梅の屋」で行いました。ビンゴゲームやじゃんけんゲーム等もして、大いに盛り上がり、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごしました。

目標を決めて、それに向かって何かを作り上げることの大切さをつくづく知らされました。やって良かったと思います。先輩の先生方が繋いでくださった大阪府本部50周年の記念を祝うことが出来てよかったです。思っております。

今日、この場にこられたことに感謝して、これからも、ますます元気で錦城流の詩吟と共に頑張っていきたいと思えます。

まずは、令和6年の全国大会、函館を目指して・・・。
(大阪府本部長 塩川錦晃)

あっ!!と驚きの子供たちとの出逢い

令和5年11月10日(金)、大宰府吟連40周年記念大会に参加。他流との交流も大切にとの思いを持って。

会場裏手にある駐車場で、誰もいないことを確認して声出しをしていると、あつという間に自転車に乗った男女の子供達。「おぼちゃん、何してるの?」と声をかけられビックリ。誰もいない筈だったのに・・・。

「発声練習していたの」と言う「何で?」と。「二階のホールで詩吟の発表会」「詩吟で何?」「何か歌って」の言葉に「東風吹かばく」を一首。「わくすこい。おぼちゃん、街中でやったらスターになれるよ。」「僕達も聞き

に行ってもいい?」「いいよ」後でもう一人来た女の子に「もう一度聞かせて」と言われ高い方の句を歌った。間もなくすると、一番後ろの席に7人ずらりと、本当に聞きに来てくれている。私の出番「青葉の笛」を終わり、階段の方へ行くと、もっと人数が増えた子供達がいた。「おぼちゃん、凄かった!!写真撮らせて、ハイ、マスク取って」取り仕切り役の女の子が、「はい、交替交替よ」とスマホで写真を撮り、名刺頂戴とか、とにかく、しっかりと子供達。私の方があっけにとられ、名前を聞いたりすること

も忘れ、二日市小学校、4年、5年生」と聞いただけ。後で考えると、あの子たち、金曜日の昼なのに休み?とか、名前を書いてとか言えば良かったな・・・とか、あの子達、毎朝夕、我が家の庭に食事にやって来る雀達だったのでは・・・?もしかしたら、「雀の恩返し・・・」と思っ

てみたりしているこの頃・・・。とにかく、7人の子供達が詩吟を聞きに本当に来てくれて、聞いてくれて、褒められたこと、何よりのプレゼントを頂いた気持ち。近年中に、あの子達にもう一度出逢えることを願う。願い事が一つ増え、古典芸能をもっと認知してもらえよう日々の努力精進を益々心がけようと改めて思わせてもらった貴重な体験に感謝です。
(福岡県本部 東本錦恰)



◆新師範の紹介◆

雅号	県名	取得年月
後藤城晋	(愛知県)	5・10
松林錦翠	(鹿児島県)	5・11
大西城芳	(鹿児島県)	5・11
木場錦信	(鹿児島県)	5・11

新入会員の紹介

(10/20~11/27)

鹿児島支部	石下谷隆蔵
門司支部	澤田たつみ
彦根支部	柴田テル子
台東道場	箕輪知恵
双盤講保存会	余村得子
和代	板倉

錦城会ホームページ

<https://kinjoukai.or.jp/>

日頃お使いのスマートフォンからも見やすいように作られています。

一度、覗いてみませんか!

小倉城庭園公演

今年、福岡県本部公開発表の場としてとらえ、昨年に続き11月2日の夕刻より、書院棟並びに庭園池の浮島での演じる様子を、参加して頂いた小倉高校書道部の生徒さんと、ご来場者の中より、福岡県民文化祭事務局長様より記事にいただきました。

プログラム内容

- 一、俳句と書道
- 二、「戦国武将の和歌と家康公の御遺訓」
- 三、琵琶吟曲「平家兵船絵巻」
- 四、詩舞「峨眉山月歌」「山中月」
- 五、琵琶弾き語り「安達ヶ原」の5演目です。出演は、県本部有志です。

福岡県俳句協会事務局長

久米隆彦様

小倉城庭園は、藩主・小笠原公の別邸で、庭園の池と庭を望む書院が都会にいることを忘れさせます。東本錦怡総師範から、小倉在住の私に、琵琶と吟詠の調べをご案内いただいたので、出かけました。折しも、小倉城では、竹あかりを催していて、小倉城庭園前の広場でも、たくさん並べられた竹筒にろうそくのあかりが灯されていました。

書院は、すでに満席で、かうじて最後尾に席を頂くことができました。平家兵船絵巻は、壇ノ浦の合戦を思い起こさせ、琵琶と吟詠が良く和しています。書院は開け放たれ、庭園からの夜気も、とても心地良かったです。



安達ヶ原は、総師範が巫女の装束のようなお召し物で、池の浮島にひとり琵琶をつま弾く、とても幻想的なものでした。実は、私は書院を抜け出して、池を見渡せる所でひとり堪能できましたのでした。野点の琵琶と吟詠は、初めての経験でしたが、総師範のおかげで豊潤な秋の宵を贅沢に過ごさせて頂き、感謝しています。

北九州市立小倉高校二年

河津隆太様

この度は、書道吟という貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。最初にございました。最初に、今渡先生からこのお話を聞いたときは、「本当に自分たちでいいのだろうか？うまく出来るのだろうか？」という不安な気持ちが強かったです。しかし、錦城流の小田城聖先生から詳しいお話や詩吟に対する思いを聞かせてもらった後は、不安な気持ちよりも精一杯自分たちの実力を出すこと、そして、見に来ていただいた方々に感動を与えたいという気持ちの方が強くなりました。

稽古を重ねる中で苦労したこともたくさんありました。詠み手の速度に合わせて書く事や所作の事など、普段の稽古の中では意識していない事が多くあったので、文字を書く事以上に注

意して稽古しました。その甲斐もあつてか、本番ではあまり緊張もせず自分たちのベストを出し切る事が出来たのではないかと思います。そして、終わった後に、詩吟の会の方々から感謝の言葉を頂けたことがとても嬉しかったです。

福岡県民文化祭俳句大会アトラクション

大野城市まどかびあ大ホールに出演依頼を受け、琵琶「茨木」の演奏と「日本讃歌」を吟じました。聞きに来てくれた会員の方々の中から感想を書いてくれた記事もお目通し下さい。

(福岡県本部 東本錦怡)



は、魂が揺さぶられる想いでした。七色の声にプラス深みがあり、幅広い音域の声の絶妙な使い方。どうやったら人をあんなに感動させられるのか、そして、人の魂に響くのかとしみじみと考えて帰った次第です。

先生の努力は勿論ですが、修行の時間の多さだけでなく、やはり生まれ持った感性の豊かさ、ずば抜けた音感の良さとセンスは、唯一無二の存在だと確信しました。

私も先生になれなくても、少しでも近づけたらと思いますし、つくづく先生の弟子で居られて良かったと心から感謝しています。

(福岡中央道場 松山錦聖)

福岡県民文化祭のアトラクションで 東本先生の琵琶と吟を聞いて

福岡県民文化祭のアトラクションで、東本先生の琵琶と吟を聞いて、歌を歌い始めた時は、びっくりしました。

その歌声は、更に深みある声で、全身全霊詠い上げる声

「詩吟へのいざないと朗詠の集い」

錦城会神奈川県本部は、ゼロサムの観点から会員増強の課題への取組みを開始することにいたしました。本来でしたら、神奈川県本部が一丸となった活動が望ましいのですが、様々な制約条件の中で神奈川県各地区ごとに草の根的な活動を行うことが肝要であるとの認識に到り、今年はその手始めとして、神奈川大和道場、通称、つくし野詩吟道場の主催で11月12日(日)に「詩吟へのいざないと朗詠の集い」のイベントを開催致しました。当日は、県本部役員の応援出演を仰ぎ、また他の道場の会員が応援に駆けつけてくれました。イベントは、以下の三部構成とし、2時間で終了致しました。

- 詩吟へのいざない・日本古来の伝統芸道としての詩吟とはどんなものか
来場者に分かりやすく解き明かす
- 詩吟朗詠の魅力とよろこび・会員による和歌、漢詩の朗詠を通して詩吟
の魅力に触れてもらう。来場者と一緒に詠い、親しみを持ってもらう
- 道場の概要と質疑応答・道場の組織、運営、吟詠発表会等への参加
見学・入会希望者へのご案内

イベントの開催に当たり、普段の稽古会場である公共施設にポスター掲示、チラシの備置、さらに町田市広報への掲載、タウンニュース(発行部数73万部)への掲載、口コミ案内等を行い、それなりの手ごたえを感じながらイベントの当日を迎えました。しかし、一般来場者は11名と振るわず、如何に潜在的な会員の掘り起こし活動が大切か、キッズから若年層への啓蒙活動の必要性、漢詩を習って育ったシニア層への継続的な詩吟へのいざないが大切かを改めて認識した次第です。神奈川県本部では、この度の活動を県本部に横展開し、少しでも実りある成果を求めていきたいと考えております。なお、本イベントをYouTube(カメキチ スーさん@user-du5lm2nq5w)にアップしましたので、ご覧いただければ幸いに存じます。

(神奈川県本部専務理事 伊東城峰)

編集担当よりのお願

いつも錦友への投稿、ありがとうございます。

コロナ禍で、行事もぐっと減り、苦肉の策で、各都道府県本部の部長さんからの投稿や一回限りの青年部通信の復刻版を出したりと試みて来ましたが、青年部をご存じない会員の皆様にも青年部と言う組織があったことを知っていただけたのではないのでしょうか。

徐々に活動も活発になってきていますが、以前ほどには復活していないのか、投稿が少なくなっています。行事の報告だけでなく、身近な発見、我が町の紹介、日頃思っている事、何でも構いませんので、是非皆様からの投稿をお願いいたします。

長い間、錦友の編集を担当されてきた故草薙城輝先生は、良く京都の紹介をお寄せくださいました。また、お弟子さん方に投稿するように話してください、地元での紹介や、短歌の投稿もありました。先生曰く、「錦友は回覧板でいいんだよ」と。是非、身近な情報をお寄せください。

錦友は、1、4、7、11月に発行しています。発行月の前月の20日までに本部事務局宛にお送り下さい。

編集後記に代えて・・・
本年も宜しくお願致します。

(佐藤錦泉)